

第五期基本構想・長期計画策定委員会 傍聴者意見提出シート

提出日 平成 23 年 7 月 26 日

氏名	[REDACTED]
住所	市内 境南町 [REDACTED]
ご意見	<p>策定委員の皆様、担当職員の皆様、真摯な話し合いとありかがとろびがいます。今後の検討にふけて、若干意見を述べさせていただきます。</p> <p>1. 市民協働について</p> <p>2012年までを計画期間とする、第四期長期計画・調整計画では、重点課題の中に「市民協働の展開と情報の共有」という項目がたごらねていいます。7月12日の策定委員会における配布資料「第五期基本構想・長期計画、基本構想について（仮案）」の中には「市民協働」の文言はありませんでした。</p> <p>私は、市民協働は、武蔵野市に於いて、現在でも重要な課題であると考へています。情報の共有を共に話し合い行動することを目指すことと通して、市と市民両者の関係性を豊かにして、<u>相互理解を深め</u>、こと、そのようにして、協働の実質をつくり上げていくことが必要なのではないでしょうか。このように観点を含め、新しい計画の中に市民協働をどのように位置づけられ、ご検討いただければと思います。</p>

(裏)

※策定委員会終了後、事務局(企画調整課)にご提出ください。FAX、メールでの提出も可能です(FAX:0422-51-5638 メールアドレス:sec-kikaku@city.musashino.lg.jp)

※ご意見は、策定委員会策定委員に傍聴者意見として紹介します。なお、ご意見に対する個別の回答はいたしかねますので、ご了承願います。

※ご意見は策定委員会事務局で保管し、第五期基本構想・長期計画策定委員会以外の目的では使用いたしません。

2. 補完性の原理について。

今回配布された上記資料の「本計画の基本的な考え方」の所に「補完性の原理」とありました。私の理解では、補完性の原理とは、自助・互助・公助について、「まず自助、次に互助、そして自助でも互助でも十分に手当てがなれない（取り組めない）所を公助で対応する」という風に、優先順位を付けた施策を考える、ということだと思えます。

自助が重要であるということをご定するものはありませんが、自助が強調されすぎることは危惧を感じます。例えば、私は精神障害者にかかわる仕事をしています。そこでは「就労支援」が対応の中心です。本人が働けるようにになり、自立した生活に近づく（自助の力が高まる）ことは悪いことではありませんが、そこが強調されすぎると、「就労せよ」が「やらねえ」というゴールになり、そこでできない当事者が体調を崩してしまふということもありません。^{また}地域で生活していく中での課題を考えたとしても、地域課題はいくつともあり、そこで自助が強調されすぎると、熱心に取り組む市民があれもこれも担うことになり、疲弊してしまふ、かえって自助の力が落ちること、ということにもなりかねません。

「補完性の原理」とは、自助・互助・公助のバランスを基本的な考え方に据え、課題ごとに、市民と、コミュニティや市民団体と、市の役割分担は誰と誰のどのようにするべきなのか、一緒に考えていくことが必要なのではないかと考えます。

以上、ご検討下さい。よろしくお願ひします。